

「すべてのキュウリにビ  
ツタリ!」。こんな宣伝文  
句の広告が、ドイツの駅や  
バス停で人目を引いてい  
る。何の広告なのだろう?  
よく見ると、連邦健康教  
育センターが戸外広告業連  
盟、健康保険組合と共同で  
行っているエイズウイルス  
(HIV)感染予防のキャ  
ンペーンだった。

一九九〇年代、南欧のE  
U加盟国でHIV感染者数  
の増加が問題になり、地統  
きのドイツもEUぐるみの  
予防に取り組んだ。二〇〇  
四年の感染者数は二千人弱  
で横ばい傾向だが、コンド  
ームを使わない人が感染者  
で、大抵誰にもビツタリ

# 国際通信 信州へ

「キュウリ」は、もちろ  
ん隠語だが、詳しい説明文  
は「コンドームは伸縮自在  
」と書かれた広告

## ドイツ

小野・フェラー・雅美



### 一瞬ドキッ オープンなPR

「あなたもどうぞ!」など  
とストリートだ。相談所の  
メールアドレスと電話番号  
も添えてある。日本の感  
覚からすると一瞬ドキッ  
と答えて、早い段階からの



オープンな性教育にあるよ  
うだ。  
「生殖」は、日本の小学  
四年相当の学年で理科の指  
導要領にある。息子が中学  
一年相当の学年に在席して  
いた時のこと。生物の授業

の時間、先生が「誰かコン  
ドーム持っている?」と聞  
くと、クラスの女の子何人  
かが手を挙げた。先生は、  
そのうちの一人に水を入れ  
ていった。しばらくすると  
破れてしまった。  
そして「伸縮自在」にも  
限度があり何回も使うこと  
はできない点や、使用期限  
を過ぎると弾性が落ちて破  
れやすくなり役割を果たさ  
ないことなどを教わった  
よ、と息子はお昼を食べな  
がら話してくれた。クラス  
の女の子たちも、使ってから  
持っているわけではなく、  
大人っぽくかっこいいか  
ら、とリップクリームと同  
じような感覚で持っている  
のだぞうだ。  
夏、リスボンで仕事があ  
った時、空港のタクシー乗  
り場ですてきな若い女性た  
ちが大きなかごを抱え、外  
国のお客たちに男女を問わ  
ず何かを配っていた。一見、  
インスタント飲料の小袋の  
ように東だった。家に帰っ  
てそれを中二と高一の子ど  
もに「リスボン土産よ」と  
あげると、「クール!」と  
喜んでくれた。

(おの・フェラー・まきみ  
通訳・翻訳者、松本市出  
身)